

User Report 成長のチカラ

愛知県海部郡

名正運輸株式会社

輸配送はもちろん、物流センターの開発と運営まで、クライアントの物流部門を一手に引き受ける 3PL として、「安全で最高の品質で最高の価値を創り出す」を経営理念に掲げ、新たな取り組みに積極的にチャレンジし続けている名正運輸株式会社。創業からおよそ 45 年、18 営業所を構え、50 億超という売上を誇る同社の成長の原動力を探った。

代表取締役社長 加藤 新一 氏

「『リージョナルからナショナルへ』というテーマのもと、今後は首都圏で認知される企業を目指します」

法人名：名正運輸株式会社
本 社：愛知県海部郡飛島村大宝 7 丁目 60 番地
創 業：昭和 44 年 6 月 10 日
代表取締役社長：加藤新一
社員数：1,100 名
保有車両：300 台



独自のノウハウを取り入れ、 新たな取り組みを続ける 3PL。 顧客の物流改善を提案するロジスティクスマネジメントの提唱。

顧客の物流部門を担う 3PL 常に最適なロジスティクスを提供

一般企業の物流機能を担う 3PL（サード・パーティー・ロジスティクス）。今でこそすっかり定着しつつある言葉だが、1965 年に創業した名正運輸株式会社では、こうした言葉が生まれる以前から、物流センター業務を担ってきたという歴史がある。

「私たちには、これまでの何十年にわたって物流センター業務に携わってきたノウハウがあります。こうした経験を活かし、例えば最適な物流のために新たな発注業務を提案したり、在庫の保有について新たな提案をしたりと、単に業務を受託するだけでなく、全体の最適化を目指した提案をお客様にすること。そこまで踏み込んだロジスティクスマネジメントによって、本当のパートナーとなることができます」

2 代目代表取締役社長である加藤新一氏は、同業他社よりも秀でた特徴についてそう語る。
自社便にこだわった輸配送も、これまで培われてきたノウハウの一つだ。

※ 3PL…サード・パーティー・ロジスティクスの略。荷主企業のロジスティクスの全体もしくは一部を、第三の企業に委託する物流業務形態の一つ。物流改革の提案から運営までを包括的に委託することもある。

かねてからの多頻度小ロットにより 養われた競争力

創業時は主に乾物問屋が主な顧客であった。やがて問屋は食品卸、メガ問屋やメガ卸へと集約され、同時期にスーパーマーケットが独自に物流機能を持つようになる。こうした流通業の再編の波に乗り、「問屋の物流」と「スーパーの物流センター事業構築」を担うことで名正運輸は大きく飛躍することとなる。中でも、多頻度小ロットという事業スタイルによって今日の競争力が身についたのだと、加藤社長は語る。

「大口のロットの方が配送として簡単でし、バブルの頃はそういったスタイルの配送が主流でした。しかし弊社は、そうした時代でも手間のかかる多頻度小ロットのニーズが多かった。私も先代社長である父親に、『なぜそんな仕事ばかり引き受けるのか』と、聞いたこともありました。しかし今にして思えば、そういった細かい業務を引き受けてきたからこそ、様々な提案ができるのです。特に昨今は在庫を抱えないために小口ニーズが主流ですから、功を奏したカタチですね」

リージョナルからナショナルへ そのための乗務員育成

現在、同社が大きく掲げているテーマは、「リージョナルからナショナルへ」。事業規模を拡大するべく首都圏での認知を目指す。新しい顧客を獲得するためにも、乗務員教育には一層力を入れている。

「今後は不特定多数のお客様とお付き合いをさせていただくこととなるでしょう。だからこそ誰からも好感度を得られるよう、外見にも気を配らなければなりません。そこで社員には、髪型や装飾品など、身だしなみには特に注意を払うようにお願いしています」（加藤社長）

車速に対しても厳しく、一般道で時速 50 キロ、高速道路でも時速 80 キロまでと徹底させている。さらに輸配送のプロセスと安全性を重視するため、デジタコやドライブレコーダー、バックモニター、動態管理などを導入。機械でカバーできる安全性を確保しながら、本社での研修や追走による抜き打ちテストなどを実施している。また、特に優れていると認められた乗務員をゴールドドライバーとして任命し、社内外での可視化のために車両や制服にゴールドドライバーを意味するワッペンを付けることとした。昨年度から始まった新制度だが、これまで 280 名ほどの乗務員のうち 25 名がゴールドドライバーとして選ばれている。

日本で初めて ISO39001 を認証取得

独自に安全委員会を立ち上げ、事故をなくすための安全に関する独自のルールや取り組みも数多く実施している。そうした取り組みが ISO の国際規格に合致し、一昨年には国内で初めて ISO39001 を認証取得することとなった。「ISO は 9001 や 14001 を取得していましたが、結局それらはモノづくりのための ISO であって、物流には当てはまらないことも多かったのです。そんな折、『交通事故による死傷者数を減らすことを目的に、企業や組織が取り組むべきマネジメント・システムの要求事項を定めた国際規格』として誕生する新しい ISO のパイロット審査のお声がけをいただきました。弊社のやり方を客観的に正しく審査してほしいとお願いし、その結果として ISO39001 を認証取得させていただきました」（加藤社長）

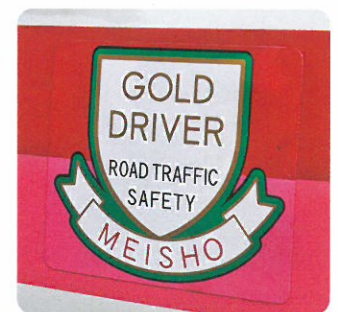
道路交通安全マネジメント・システム国際規格
「ISO39001」の認証を全国で初めて取得。



顧客満足のため、庫内スタッフは名札完全着用。身だしなみもしっかり整えられている。



フラットパネルウイングを中型として初採用。ホワイトの映えるパネルに描かれたロゴにより、遠くからでも社名が分かると評判。



看板ドライバーというべきゴールドドライバーのみに許されるマグネットステッカー。

